

<b>Title</b>	韓国・長老会神学大学校との交流：現状と今後
<b>Author(s)</b>	松本, 周
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.3 : 23-23
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3524">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3524</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

# 韓国・長老会神学大学校との交流—現状と今後—

松本 周

## 1. はじめに

2008年9月19日、韓国・長老会神学大学校と聖学院大学との間で提携協定が調印され、両大学の交流が開始された。現在、両大学では研究交流を主とした二つのプログラムが実施されている。本稿ではその現状を報告するとともに、今後の展開可能性についても記したい。

## 2. 日韓神学会議

2007年8月20日に「日韓神学会議」と銘打ち、総合研究所組織神学研究センター主催による懇談会が聖学院大学を会場として開催された。韓国から、アジア・カルヴァン学会会長（当時）、セムナン教会主任担任牧師の李秀英博士と長老会神学大学校（大韓イエス教長老教会統合派）の金重恩総長（当時）をお迎えした。お二方の先生それぞれが責任を負っていらっしゃる、教会と神学大学校について伺い、その活動の広さ・豊かさに大いに感銘を受けた。

交流協定締結後、2009年3月10日に韓国・長老会神学大学校を会場として、第1回日韓神学会術会議が開催された。「欧米神学とアジア神学」を主題とし、本学総合研究所から講演者として深井智朗教授、コメンテーターとして藤原淳賀准教授（当時）が派遣された。翌2010年の開催予定は諸般の事情で見送りとなっていたが、本年6月に再開を要請し、2012年に本学での開催へ向けて主題等が検討されている。

## 3. 日韓教会交流史研究

当プロジェクトは、2010年より三年間の共同研究として、日韓現代史研究センターの所管により進められている。

2010年度は先行研究の確認と検討を主に行った。そして2011年2月1日に研究会を開催した。同会開催後に、今後の研究の方向性について、検討と

協議が重ねられた。その結果、本プロジェクトは歴史を研究対象とするものの、狭義の歴史学的研究に留まるのではなく、組織神学的視点、また北東アジアの将来形成に資する研究発表を目指すべきことが確認された。

上記の事項をふまえて、本年度は2011年11月に韓国にて国際シンポジウムを開催する。聖学院大学総合研究所からは松谷好明教授と松本が派遣される。

さらに2012年度には、聖学院にて「1945年以降のデモクラシー憲法と両国教会」を主題としてシンポジウムを開催、21世紀の北東アジアにおける教会の役割についても討議する予定となっている。

## 4. 今後の展開について

現時点で具体的に決定されている事柄ではないが、以下のような可能性について発案・検討がなされている。一つには、2012年に開催が計画されているプログラムについて、学内・対外的に幅広く呼びかけ、参加いただく方途の検討がなされている。なお一つは、従前は研究活動を主としてきた両大学の交流を、学生交流にまで発展させていくことである。長老会神学大学校が既に世界各国の大学との間で実施している、短期訪問プログラムや、交換留学生の相互受け入れ等が実現することを願っている。

最近、喜ばしい大きなニュースを受け取った。両大学の交流推進の為に多くご苦労くださった、洛雲海牧師が本年2月に長老会神学大学校より神学博士の学位を授与され、さらに9月からは同大学外国人専任教授に就任なさった。先生の宣教活動そして神学研究と教育のお働きのさらなる充実をお祈りするとともに、お働きを通じても両大学の提携が豊かな実を結ぶことを心から切望するものである。

（まつもと・しゅう 聖学院大学総合研究所助教）